令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3790100238		
法人名	悠悠 有限会社		
事業所名	グループホーム悠悠庵治の太陽		
所在地	高松市庵治町3822番地1		
自己評価作成日	令和3年 7月 24日	評価結果市町受理日	令和4年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111
訪問調査日	令和3年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

法人理念である「感謝の気持ちを大切に笑顔あふれる空間を作ります」という下、アットホームな雰囲気で入居者様が過ごしやすい環境作りに職員同士で協力して全力で取り組んでいます。できる事を少しでも長く続けていけるよう、日常の生活の中で、掃除や洗濯、調理など入居者様1人1人に合わせて自立支援を図っています。毎日のテレビ体操や、食事前の口腔体操を続けて行うことで機能の低下を防げるよう取り組んでいます。

自然豊かな田園丘陵地に立つ平屋建て2ユニットの事業所である。事業所は利用者や家族等の意見・ニーズをよく聴き取り、個別に把握し実践する事に努められている。
日常の場面ごとに利用者ができることを考慮し、その人のペースに合わせて一緒に職員も同様の行為を行うなど寄添うケアが行われている。また、加齢に伴い利用者ができる事の減少、下肢筋力の低下や表情に変化を感じる中でも、全員で歌を歌いながら毎日体操を行うなど、楽しみや体力維持への支援もなされている。
利用者や家族、管理者や職員もみんなで現状を話し合い、また知恵を出し合い、住みやすい良い施設を作ろうとしている姿勢がみられる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を、毎日の朝礼時に唱和し職員全員が共有できるようにしている	法人理念や事務所の理念は目に付く箇所に掲示、毎日朝礼時に唱和がなされている。また、ユニットごとに理念を具体化した目標を立てられ、職員は日々の業務を行う上で意識して実践に繋げられている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時、近隣の方々と挨拶を交わしたり、地域の行事にも参加し交流を図っている	地域の方から案内をいただき、イベントに参加したり、ボランティアの受け入れ等なされている。散歩や外出では顔見知りとなった方と挨拶する関係が築かれている。また、自治会の清掃や交流等にも参加されている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で地域行事の参加についてや地域貢献の方法などについても話し合いアドバイスをもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況やホームでの取り組み、行事等の報告や情報の交換をし、率直なご意見を頂き、サービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナ禍では文書の交信になっているが、2ヶ月ごとに開催されている。会議には社協や民生委員、家族等や地域包括支援センター職員等と活発に意見交換がなされている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などで事業所の実情を伝えながら、入居相談や困難事例があれば、地域包括支援センターの職員に伝え、問題解決している	包括支援センター職員等と運営推進会議を通じて、事業所の現状や入居者の相談・困難事例など、多岐にわたり相談しアドバイスをもらうなど関係が構築されている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束委員会を開催し意見交換を行っている。ミーティングや勉強会でも取り上げ、ケアする上で個々の安全、拘束のない日常生活を支援している	3ヶ月に1回は身体拘束委員会を開き検討がなされている。職員間でミーティングや勉強会を通じて定期的に話し合われている。身体拘束は見らてないが、玄関の施錠は不審者の対策のために行い、外に出たい方へ等の対応はその都度付添われている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	悠悠全体の虐待防止委員会を年4回開催し、話し合った結果を職員全体に周知している。研修を年2回実施し、職員の意識向上に努めている		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中で、入居時に必要と判断し、日常生活自立支援事業、成年後見制度を活用できるよう関係者と話し合い手続きを進めた		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に施設見学をして頂くが、見学が出来ない状況時には施設内を写真で見ていただけるようパネルで分かりやすくまとめたもので説明。「グループホームQ＆A」を読んで頂き、内容を理解して頂けるよう配慮している。又、契約時にも不安点がないよう十分説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様とは密に連絡を取るようにしている。又、年1回匿名で家族様アンケートを実施し、家族会（年2回）にて意見交換を行い、職員全体で改善点について話し合い、ケアの向上に努めている	毎月担当者から手紙や写真の送付、緊急時には電話するなど密に連携されている 更に、家族会やアンケート等で意見や意向を聞き取るとともに、改善点を話し合うなどして運営に反映されている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開催し、意見を聞く機会を設けている。内容については、本部会議で運営者に報告し、後日、職員の面談を個別に行っている	管理者を中心に朝礼やミーティング時に、職員の提案や意見を聞く機会が設けられている。事業所の運営に関する提案は本部会議にて運営者に報告、改善されている。運営者は年2回職員の個人面談を行い、直接聞取りの機会ともなっている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設に来所された際に、職員の悩み等を聞き取り、職場の環境整備に努めている。又、職員の資格取得に向けた支援を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月第3金曜日に介護講習会を実施している。外部の研修に関しては、各職員に必要な研修を受ける機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設への見学など、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームを見学して頂き、雰囲気や生活の様子を知って頂く事が大切だと考えている。ご本人の状態を見ながら、不安な事や要望などをお聞きし、信頼関係を築いていけるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要な支援やサービスが見えてくるまで、家族様の悩みや要望をお聞きし、一緒に考え、解決している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に不安や困っている事など、十分に実情や要望をお聞きしている。又、初回の面会時から、担当ケアマネジャーや家族様より情報提供をして頂き、ご本人が必要とされているサービスを見極めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人としての尊厳を大切にし、これまでの生活や生き方を把握し、昔の知恵などを教わりながら、一緒に成し遂げる事により支えあえる関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば連絡をし、近況報告などこまめに報告している。受診の付き添いなど依頼し、医師からの説明など一緒にに聞いて頂く事で、体調面の把握や本人様の安心感をもたらし、共に支えていけるよう関係の構築に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人といつでも電話できるよう携帯電話を所持し、電話で交流が続けられるよう支援している また、普段の会話の中から馴染みの場所などお聞きし、お連れするよう努めている	コロナ禍では、関係が途絶えないように、電話連絡や個人の携帯電話・スマホなどの利用を増やし支援がなされている また、行きたい場所を聞いて、馴染みの場所へ外出もできるよう試みられている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、食事の席や生活面においての環境作りをしている。状況に応じて職員が間に入り、交流が持てるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もホームでの生活状況について、介護支援専門員に情報提供したり、家族様からの相談にも乗っている		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から、さりげなく聞き取り、希望や意向の把握に努めている。職員間で情報共有し、全職員が統一したケアが出来るよう努めている	本人や家族から思いや希望を聞き取り、日々の生活の様子を考慮しながら、職員間で情報を共有し、統一した認識のもとでケアに当たられている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談を行い、「生活歴」等の独自シートを活用し、これまでの暮らしぶりや生活習慣の把握に努める		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動や言動、生活状況を個々に把握し、利用者様に変化があればその都度職員間で話し合い、課題解決に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、アセスメントを定期的に行い、家族様、主治医、職員等がそれぞれの意見や要望を取り入れ、その人らしい計画を作成している	毎月ミーティング時に介護計画を検討する機会が設けられている。利用者担当職員の意見や家族・医療関係者等の意見を参考に、計画担当者がその人らしい計画となるよう配慮して作成がなされている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態変化を見逃さず、詳しく記録し、職員間で情報共有する必要があれば話し合い、計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ゲストルームを設けており、いつでも家族様が宿泊できるよう寝具も用意している。家族様が気兼ねなくお越しいただけるように出来る限りの支援を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際、地域の方々や地域包括支援センターの方、民生委員の方と意見交換を行い、公共施設の利用や地域の行事に参加させて頂いている		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご本人、家族様から希望される医療機関をお聞きし、決定している。又、協力機関の医師が月2回定期往診に来られ、緊急時、夜間も対応してもらえる	かかりつけ医は本人や家族等の希望で決められている。事業所には内科と歯科の往診があり、緊急時の対応もなされている。専門医の受診は家族が付き添うが、送迎等支援しており、医療機関との連携も図られている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の状態や変化を、申し送りや連絡ノートを活用し、把握できるようにしている。利用者様の急変時には看護師に連絡し、迅速な対応ができるよう体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には、本人の状態把握のため、可能な場合は面会し、困難な場合には電話連絡にて状態把握に努めている。また、家族様とも密に連絡を取り、退院に向けてなど話し合う機会を設けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期、重度化された場合の事に関しては、入居時に家族様の意向、希望をお聞きし、施設での対応が何処まで出来るか等の説明を行なっている。又、入居後も機会をみながら話し合いの場を持つようにし、出来る限り意向に添えるように取り組んでいる	入居時に「重度化した場合における対応に関する指針」に示されている通り、事業所から本人や家族に説明が行われている。また、重度化等その都度、話し合いが行われ、終の棲家となれるよう取り組まれている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応や緊急時の対応について、定期的に勉強会を行なっている。すぐ対応出来るように、事務所にも掲示している。年1回消防署に協力して頂き、救急講習会やAEDの実践訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いにて、年2回夜間を想定した避難訓練を行い、近隣の方々にも参加して頂けるよう働きかけ、役割分担を決めている。災害時マニュアルも見直しを重ね、消防署の助言を頂いている。	災害対策マニュアルは定期的に見直しされており、訓練には消防署員や近隣の住民の参加で役割分担など協力関係も構築されている	日頃の訓練や近隣の方々との関係作りなど防災対策に懸命に取組まれている 更に、事業所の立地や最近の気象変動も勘案し、豪雨や水害対策等個々の状況に備えた取組みの深まりに期待します

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を守り、声掛け、対応できるように努めている。ミーテング時などに普段の声掛け、接し方を振り返り、相手の立場に立って対応できるよう意識の統一に努めている	年に1回は人権擁護の研修を受講している。実践においては職員同士で話し合い、各自が注意し合い、一人ひとりの接し方や声のかけ方を学びあっている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を多く持ち、話しやすい環境を作り、その方の表情や仕草等で日々、状態観察を行い、自信が持てる生活が送れるよう支援している。又、自分で選択できるような場面を作り、力量を発揮できるよう取り組んでいる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	こちらから、一方的に与えるばかりではなく一人ひとりに選んでもらえる機会をなるべく多く作り、本人様の希望を叶えられるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装をご自分で選んで着用されている方は見守り、季節に応じていない洋服の場合には、自尊心に配慮しながら、一緒に選ぶなど対応している。2か月に1回訪問理容があり、本人の要望に沿ったカット、顔そりを行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に嚥下体操を行い、誤嚥防止に努めている。又個々に応じた食事形態にしいている。食事の準備や後片付けは利用者様と一緒に行い、利用者様同士会話を楽しみながら食事を行っている	主食と汁物はユニットで作り、利用者各自が出来る事で参加している。エプロンをつけ準備や片づけ、味見をしてもらうなど、どこかに参加してもらっている。共に作業をすることで会話が弾む様子がみられる	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成し、栄養バランスを考えている。食事、水分量のチェックを行い、状態把握に努めている。水分摂取の少ない方にはﾎﾟｶﾘｽｴｯﾄ等を用意し、状態に合わせてゼリー等にして提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており介助が必要な方にはスポンジブラシなど用いて口腔ケアを実施している。希望者には、月に1回歯科往診にて口腔ケアを実施している		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、定期的に誘導、声かけ、介助を行っている。又、トイレに行きたい時の仕草、行動を把握し、誘導している	排泄記録表を活用し、一人ひとりのパターンを把握し、その人に必要な支援が行われている。トイレ利用に必要な下肢筋力向上のためにテレビ体操等も毎日実施されている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い野菜や乳製品を取り入れ、水分補給がしっかり出来るよう努めている。自然排便を促すため、毎日軽い運動も行っている。重度の便秘症の方には、医師と相談し、内服薬にて対応する場合もある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回の予定で、利用者様の身体状況やその日の状態に合わせて実施している。利用者様の希望を出来るだけ優先し、入浴を楽しんで頂けるよう支援している	利用者の身体状況に応じて、一般浴や特浴の設備があり、週2回から3回の予定で入浴されており、可能な限り、利用者のその日の状況に合わせた入浴支援が実施されている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態や希望に沿って休息したり、安眠できるよう支援している。夜間、不穏のある方には側に寄り添い、マッサージなど行い安心できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服表をファイルにまとめており、薬の効能や副作用がすぐに確認できるようにしている。状態に変化があれば、すぐに医師に相談し、指示を仰いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活において、個々に合った役割を持って頂いている。毎日の表情や態度を観察し、楽しみが持てるよう声かけしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や天気の良い日は、外気浴を行っている。花壇の水やりなど屋外へ出る機会を作り、又利用者様の希望によりドライブや外出などに出掛けている	事業所周辺の散歩・外気浴は日常の生活の中で習慣化している。コロナ感染症流行の収束時には、利用者の要望実現や気分転換を図るために、今よりもドライブや行楽・外食などのお出かけを更に充実したいと考えられている	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難な方は、ホームで管理している。買物に行った際には、ご本人にお金をお渡し、ご自分で支払いが出来るよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より電話したいと希望があれば電話をかけ取り次ぎ対応している。携帯電話を所持している方もおられ知人と交流を図っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に整理整頓に心掛け、環境整備を行っている。共有のスペースには季節の花や飾り付けなどを一緒に作り工夫をし、心地よく生活できる空間作りを行っている	天井が高く開放感があり、穏やかな間接照明の天窓付きの回廊でつながったユニットは広く明るく感じる。居間兼食堂は利用者や職員が一緒になって食事を作ったり、体操をされたりと活気もあり居心地が良い。季節のオブジェや花など細やかな配慮もみられる	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席を配慮し、気の合った利用者様同士が会話を楽しまれている。疲れた時には、ソファーにて休まれている。1人になりたい時には、居室に戻られ、思い思いの時間を過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	**ご自宅で使い慣れたものを持ってきて頂き、今までの生活環境をなるべく崩さないようにし、整理整頓も利用者様と一緒に行い、解りやすくラベリングし、心地良く暮らしていただけるよう配慮している**	入り口に部屋番号と○○さんと記された名札があり、室内窓は開閉が自由で風景が望める。洋服ダンスとベッドは設置され、家具やテレビなど私物の持ち込みも出来る。整理整頓等担当の職員と一緒に行われている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、浴室に手すりを設置している。日常生活の中で出来ることは見守りし、安全に配慮しながら、可能な限り自立した生活できるように援助している		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
Ⅰ.理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を事務所に掲示している。朝礼時に、全員で唱和し、その理念を共有し、実践につなげている
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の散歩などに入居者様と出かけ挨拶をして交流を図っている
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症の理解や、支援方法など、施設の取り組みを説明、報告し、参加して頂いた方々にも多方面からのご意見を頂きケアに活かしている
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や施設での取り組み、行事等の報告をしたり、情報交換し、率直なご意見を頂き、それを参考にしてサービスの質の向上に活かしている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情を伝えながら、入居に関する相談や、困難事例があれば地域包括支援センターの職員に相談し、問題解決している。わからない事があれば、市の介護保険課に相談する事もある
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束委員会を開催し意見交換を行っている。ミーティングや勉強会でも取り上げ、ケアする上で個々の安全、拘束のない日常生活を支援している
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	悠悠全体での虐待防止委員会を年4回開催し、話し合った事を事業所にて職員に周知している。施設の研修会でも講師より指導を受け、職員の意識向上を図ったり、事例検討をして、拘束のないケアの実践を行なっている

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業を利用されている利用者様が1名おられる。施設研修会等で学習し、ご家族からの相談等の対応や、今後の支援にも活用できるようにしている
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に施設を見学してもらい、質疑応答や、施設独自で作成した「グループホームQ&A」を読んで頂き、内容を理解して頂けるよう配慮している。又、契約時にはご納得頂けるまで充分に説明を行なっている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様とは密に連絡を取っている。面会時には利用者様の状況報告を行い、意見、要望を頂いている。家族様アンケートの実施を年1回、家族会を年4回開催し、ご意見を頂き、職員全体で改善点について話し合い、ケアの質の向上に取り組んでいる
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開催し、意見を聞く機会を設けている。内容については、本部会議で運営者に報告し、後日、職員の面談を個別に行っている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設来所時に、職員の悩み等を聞き取り、職場環境の整備に努めている。職員のレベルアップを計る為、資格取得に向けた支援を行なっている
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修情報や、職員に必要な研修があれば受講する機会を設けている。年間計画にて、施設研修会を毎月開催している。OJTを活用しながら、職員の質の向上に努めている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへの見学、外部研修等で交流を持ち、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の状態を見ながら、不安な事や要望などをお聴きし、実践する事で、信頼関係を築いていけるように努めている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の困っている事や、気にかかる事等を十分にお聴きし、不安を解消できるようなサービスを実践し、安心して頂けるよう努めている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面会時から担当のケアマネジャーや家族様より情報提供して頂き、ご本人が必要とされているサービスを見極め、実践している
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活する中で、人としての尊厳を大切にし、ご経験による知識等、様々なことを教わり、お互いが支えあえる関係を築いている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節の行事にお招きし、家族様との交流を大切にしている。面会時には、居室や別室にて利用者様と家族様がゆっくり過ごせるよう配慮している。施設での状況報告を行い、意見、要望をお聴き、ご本人、家族様、職員が協力し、支えあう関係作りをしている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しかった友人と連絡を取り合い、施設にお越し頂いたりしている
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を理解した上で、リビングの席位置の配慮を行い、利用者様間の交流がもてるように努めている。居室に居る時も、声かけし、孤立しないようにしている

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設を退所されても、家族様に連絡したり、転所先なで訪問するなど、利用者様、家族様のご相談に乗るようにしている
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や仕種の中から、利用者様の思いを把握し、連絡ノート、毎日の申し送りや、毎月のミーティング等で情報を共有し、ケアに活かしている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に記入して頂く「生活歴」や「生活の様子シート」を利用して、これまでの暮らしや生活環境の把握に努め、ケアに活かしている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の記録に、その日の行動や言動等を記録し、現状の把握に努め、ケアに活かしている
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、アセスメントを定期的に行い、計画を基に、家族様、利用者様、職員、主治医等で話し合い、それぞれの意見や要望を計画に反映させている
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態に変化があれば詳細に記録に残し、職員間で情報を共有し、必要であれば実践や計画の見直しを行なっている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	宿泊室を設け、いつでも家族様が泊まれるようにしている。家族様が気兼ねなくお越し頂けるように和やかな雰囲気作りをしている。家族様の希望、要望には臨機応変に対応させて頂いている

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用して、地域の方々や地域包括支援センターの職員、市の職員と意見交換し、地域資源の施設の利用や行事に参加させて頂いている
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族様の希望をお聴きした上で医療機関を決定している。協力医療機関の医師が月2回の定期往診で健康管理を行なっており、緊急時や夜間の支援も可能である
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化があれば、看護師、主治医に連絡、相談し、対応している。職員間での共有方法として、申し送りや連絡ノートを活用している
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院されている場合は、頻回に病院に行き、状態把握をし、家族様とも連絡している。医療連携室の職員や看護師からも話を聞き、状態の把握を行なっている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や重度化された場合に関して入居時に家族様の希望を聴き、施設での対応がどこまでできるか説明している。入居後も機会を見ながら話し合いの場を持つようにし、看取りケアは行なっていないが、出来る限り意向に沿えるようにしている
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応や緊急時の対応について定期的に勉強会を行なっている。年1回消防署に協力して頂き、救急の講習やAEDの実践訓練を行なっている
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立合いにて年2回夜間を想定した避難訓練を行なっており、月1回災害を想定した訓練を実施している

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り、ミーティング時に声掛けや、接し方等の話し合いを行い、日々を振り返り、学習する事で個人の尊厳を大切にしたケアの統一を図っている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事にも捉われず、自由に表現できるよう、傾聴する姿勢や、その人に応じた声掛けで、自分で選択したり、自己決定できるような場面を引き出し、自信を持って生活ができるよう支援している
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、一人ひとりに声かけをし、会話する時間を持ち、その日の状態を把握し、快適に自分のペースで過ごせるよう支援している
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴準備、外出の時に一緒に洋服選びをし、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るようにサポートしている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に嚥下体操を行い、個々に応じた食事形態にし、誤嚥防止に努めている。食事の準備や後片付けを入居者様と一緒に行なっている。食事中は会話を楽しみながら、ゆっくりと食事できる環境作りをしている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量のチェックを行い、状態の把握に努めている。食事、水分量が不足している場合は、看護師、医師に相談し、食べやすい物、ご本人の好むものを提供し、健康管理に努めている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけをし、行なっている。十分に出来ない方には職員が付き添い、声かけ、介助を行ない、清潔保持に努めている。夜間は、義歯を預かり、洗浄、消毒をしている

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握し、定期的に声かけ、誘導を行なっている。失禁回数が減少している方もいる
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた食品や、軽い運動を行い、自然排便が出来るよう取り組んでいるが、重度の場合は医師に相談し、内服薬にて対応する場合もある
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の身体状況や、その日の状態にあわせて実施している。週2～3回の予定だが、利用者様の希望を優先している。入浴できない場合は、清拭対応をしている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動時間を増やし、生活リズムを整え、夜間安眠できるよう支援している。安心して眠れるまで、傍に寄り添うようにしている。医師の処方で、軽い睡眠導入剤使用の方もいる
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明表を個別にまとめており、職員がすぐに薬の内容を把握、確認できるようにしている。症状の変化があれば、すぐに医師に相談し、指示を仰いでいる
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味を把握し、日常生活の中での役割や楽しみを持って生活できるよう支援している
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外気浴をしたり、少しでも戸外に出るようにしている。利用者様の希望もお聴きして、定期的に外食や買物にも出かけている

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己管理できない方は、施設で管理し、お小遣い帳にて管理している。家族様には出納帳のコピーとレシートを毎月のお手紙と一緒に郵送し、報告を行なっている
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも電話を掛けられるようにしており、個人で携帯電話を利用している方もおられる。手紙や葉書でやり取りする方もおられる
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、季節の花を飾ったり、季節ごとに貼り絵、小物、塗り絵等を利用者様と一緒に作成し飾っている。空調の温度管理にも配慮しており、時間を決めて換気を行うようにしている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2人掛けのソファーを置いており、気の合った人同士が寛いで過ごせるよう工夫している。音楽を聴いたり、お喋りをしたりして寛いでおられる。1人になりたい時は自室で過ごしておられる
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていた家具、小物等を持ってきていただき、使用されている。利用者様が自宅にいた時と同じように、居心地良く生活できるよう配慮している
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の中で、出来る事は、見守りながら、介助が必要な方には手伝いながら、利用者様が安全に、可能な限り自立した生活が出来るよう支援している